



女子高生のための心理学

自分の能力を自分で下げないで

ステレオタイプ脅威

自分に関わるネガティブなステレオタイプがあらわになる課題を行う状況において、その課題のパフォーマンスが低下すること



シュメイダーとジョンズが2003年に行った実験

- ・簡単な算数問題を解かせることを2つのグループに行ってもらう
- ・実験を開始する前にそれぞれのグループに別々の内容を説明する

この課題はワーキングメモリの容量を測っています。

Aグループ

課題の内容そのものを説明する

この課題は数学的な能力を測定しています。この能力が理系科目の成績における男女差を引き起こしています。

Bグループ

ステレオタイプを実験的に生じさせる

男女差なし

女性の成績が低下



ステレオタイプ脅威

課題と無関連の思考が浮かんでくる

できてるかどうかを過剰に気にする

ワーキングメモリの言語的側面によって引き起こされる

無関連な後続する課題の成績も低下する

ワーキングメモリの容量低下

学力効率の低下

ワーキングメモリとは？

1つのことを覚えつつ別のことを考えるような能力で、この能力の大きさ（容量）には個人差があります。



今井正司

川村学園女子大学文学部心理学科
早稲田大学応用脳科学研究所



Twitter で心理学のスライドをアップしています

@Imai_Shoji